



シャイン・サザーランド

英国の著名な起業家。スキングアブランドMioを立ち上げ、10年間でハリウッドスターを顧客にするまでに成功させた。2017年にはスキングアビジネスからリタイアし、フレドリカ・マグネン氏とNGO「プラスチックプラネット」を設立。

海洋プラスチック問題の解決には、私たち一人ひとりの具体的な行動が必要です。

海洋プラスチック問題の解決に取り組むシャイン・サザーランドさんに、NGO「プラスチックプラネット」の活動と、日本製紙グループの取り組みの可能性についてお話を伺いました。

強い使命感からNGOを設立

地球環境の悪化が深刻化する中、私たち一人ひとりがすぐにでも行動をとらなくてはいけない状況にきています。中でも海がゴミで汚染されるなど「目に見える」海洋プラスチック問題は、私たちが具体的にどう行動するかを考える入口になりうるといいます。

私が友人のフレドリカ・マグネン氏と海洋プラスチック問題に取り組むNGO「プラスチックプラネット」を設立したのは3年前、2016年のことでした。当時、私はマグネン氏が携わったドキュメンタリー映画「プラスチック

オーシャン」(クレイグ・リース監督、2016年公開)を見て、プラスチック廃棄物による海洋汚染の現状に強いショックを受けました。プラスチック廃棄物の問題を解決するには、私たち自身が行動を変えなければならぬと強く感じたのです。膨大なプラスチック製品がゴミとして廃棄され、海洋汚染につながる流れを何とか食い止めなければならないとの強い使命感を感じたことが、マグネン氏との「プラスチックプラネット」設立につながりました。

企業等と連携し、人々の意識と行動を変革する

海洋プラスチック問題を解決するには、第1に社会の在り方を変える、つまり旺盛な消費欲から「買う、捨てる、買い直す」という欧米や日本などの先進国における消費社会の構造そのものを変革する必要があります。第2にプラスチックが安いゆえに使い捨てて良いという人々の意識の変革です。例えば安いプラスチック原料が石油産業への莫大な助成金による副産物ともいえる事実を多くの人は意識していません。

私たちにできることは、まず人々に海洋プラスチック問題を知ってもらい、考えてもらうことです。そのために、私たちのNGOでは、学校、政府、産業界、メディアなどさまざまな関係者と連携しています。人々の意識や行動を変えるには、マーケティングスキルと起業家精神が必要であり、一部のNGOのように企業と対立するのではなく、ビジネスを通じて解決していきたい、社会に適切なビジネスは世

界をいち早く変革する力があると考えています。

私たちの具体的な取り組みの一つが小売店における食品包装の改革です。まず、オランダのスーパーマーケットチェーン「エコプラザ」で、1年の準備期間を経て世界初のプラスチックを使わない売り場を設けました。この取り組みは、全店舗に広がっています。その後、北ロンドンの別のスーパーマーケットでも同様の取り組みを行いました。この時はわずか10週間で約2,000の商品を陳列することができました。

これらの取り組みは消費者の共感を呼び、売り上げも伸びるなど大成功をおさめ、世界中のスーパーマーケットから私たちにアドバイスを求める多くの問い合わせがありました。海洋プラスチック問題の解決に向けた取り組みをビジネスとして成り立たせるには、メディアを通じた啓蒙や企業側の理解だけでなく、消費者が満足する取り組みである必要があります。私たちのプロジェクトに多くの消費者が共感し賛同してくれることが、私たちの自信となり、大きな支えとなっています。

日本製紙グループへの期待

紙をプラスチックの代替とすることは海洋プラスチック問題を解決する有効策の一つです。持続可能な森林経営によって生産された紙は、大気中のCO₂削減にも寄与します。既に欧州を中心に有名なファストフードチェーンやカフェでカップやストローが紙製品へと置き換えられつつあり、新たに紙カップや紙製ストローの製造会社が設立されています。近年は紙の技術革新も目覚ましく、リサイクル可能な耐水紙を使った野外イベント用のテントなども登場しています。

日本製紙グループの水蒸気や酸素へのバリア性の高い紙も、プラスチックの代替品として海洋プラスチック問題の解決に大いに貢献すると思います。紙、木材、セルロースなど、森林由来のすべてが海洋汚染の解決に結びつく素材となりうると確信しており、日本製紙グループのこれからの活動に大いに期待しています。

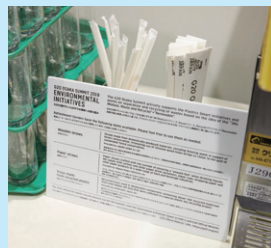


エコプラザに陳列されたプラスチックを使わない商品(紙や生分解する素材が使用されている)

TOPIC G20大阪サミットで当社製品が使用・展示

海洋プラスチック問題は、2019年6月28日・29日に開催されたG20大阪サミットでも主要課題の一つとして取り上げられましたが、同サミットの会場において、当社の「紙製ストロー」が代表団レストランや国際メディアセンターのケータリングコーナー、プレスダイニングで使用・展示されました。また、それに先立ち、G20関係者会合のサイドイベントとして軽井沢で開催された「地球へ社会へ未来へ G20イノベーション展(6月14~16日)」では紙製バリア素材「シールドプラス®」を出展しました。

当社は、「紙でできることは紙で。」を合言葉に、社会の課題解決につながる「紙化ソリューション」を推進しており、幅広い分野で「紙」の可能性を広げる取り組みを進めています。



展示された紙製ストロー

お知らせ

皆様からの声をお待ちしています。ウェブアンケートにご協力ください。



<https://bit.ly/2Gz3Dck>

ウェブ上に英語版を掲載しています。



<https://bit.ly/2SNB6YK>

編集後記

シャインさんがプラスチック問題に関わるきっかけとなった映画は、当初はシロナガスクジラのドキュメンタリー制作が目的だったそうです。海洋プラスチック汚染を目の当たりにし、その2年後にはプラスチックフリーの店舗を立ち上げるなど、その行動力には目を見張るものがあります。吸水性や耐水性などさまざまな特性を持たせられる紙に大変期待をしているとも話されていました。今号を通じて皆様に紙の可能性についてお伝えできれば幸いです。

(藤田啓子)

紙季折々

しき※おりおり

日本製紙グループ
環境・社会コミュニケーション誌

Vol.29

紙でできることは紙で。



人々の暮らしの中にある身近な紙。

長い歴史を持つこの素材は、時代とともに進化してきました。その時々求められるものは便利さであったり、心地よさであったり、環境に配慮したものなど、多岐にわたります。

わたしたちが掲げる合言葉は、紙でできることは紙で。

これまでの紙の役割を再確認し、新たな価値を創造する。紙でできる、紙だからできる。

今号ではそんな「紙でできること」について特集しました。

お問い合わせ先

日本製紙株式会社 CSR 本部 CSR 部 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-6 (御茶ノ水ソラシティ) TEL: 03-6665-1015
ホームページ: <https://www.nipponpapergroup.com> お問い合わせ: <https://www.nipponpapergroup.com/inquire/>



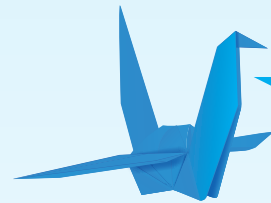
本誌は間伐に寄与する紙を使用しています。2019.8.20

木とともに未来を拓く

紙でできることは紙で。～紙の用途とその可能性

近年、使い捨てプラスチック製品の流出等による海洋プラスチック問題を背景に、世界各国でリサイクル可能な製品や生分解性を有する製品などへの需要が高まっています。その中で、再生可能で自然に還るバイオマス資源である「木」を原料とし、古くからリサイクル技術が蓄積されている「紙」は、それらのニーズを満たす素材[※]として期待されています。一言で紙といっても、さまざまな機能があります。紙でできることは紙で。今回の特集では、これまでとこれからの紙の機能とその可能性について、日本製紙グループの紙製品の事例とともにご紹介します。

※ 持続可能な森林経営由来の木材利用が前提となります（当社グループの木質原料はすべて持続可能な森林経営由来です）。



POINT 3 SDGsへの貢献

世界の人々の豊かな暮らしと文化の発展への貢献を目指す、当社グループの紙製品は、SDGsの以下のゴールと関係が深いと考えています。



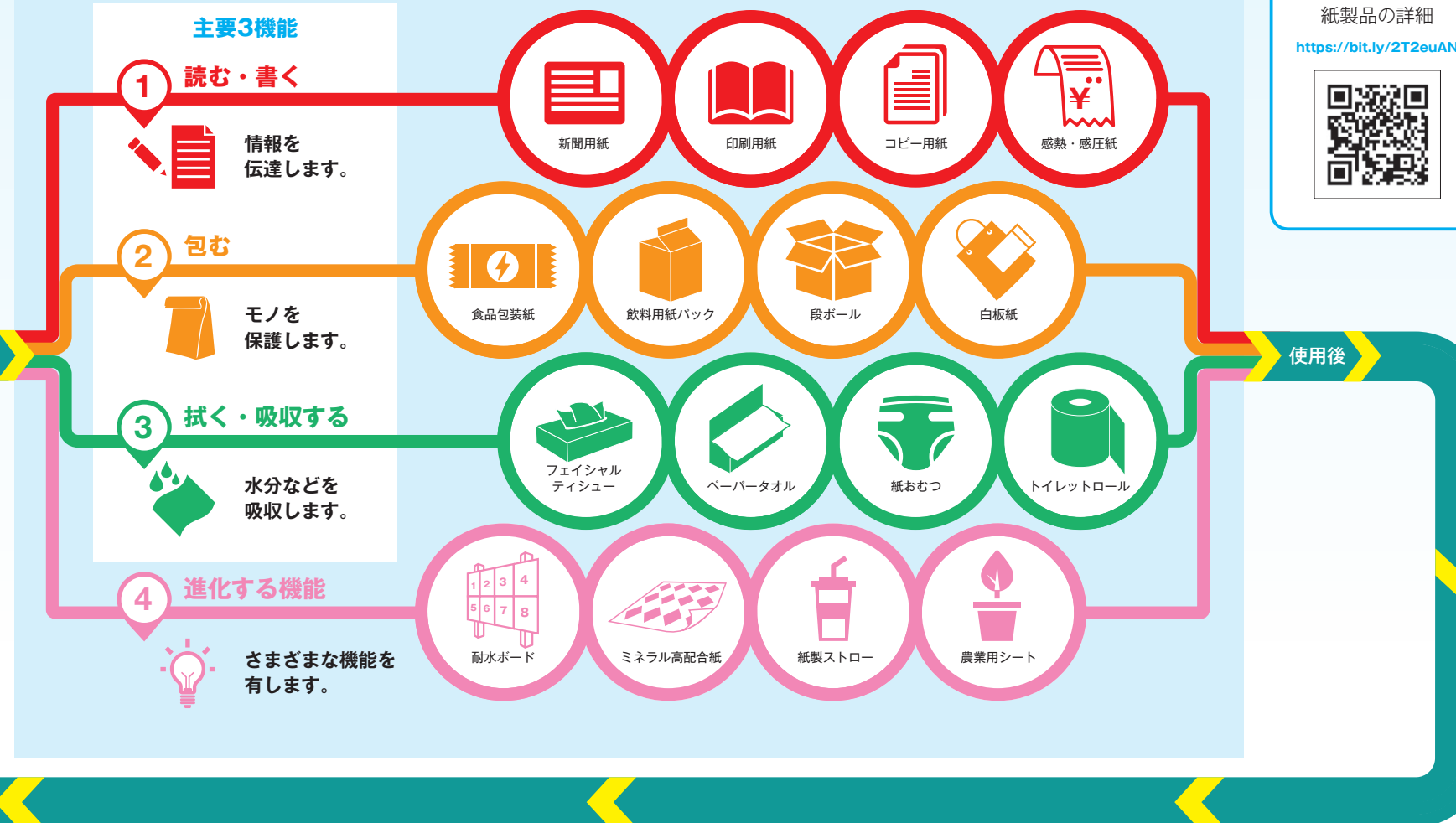
POINT 1 紙の持つ環境優位性

- 再生可能 ● リサイクル可能^{※1}
 - 生分解性を有する^{※1}
 - カーボンニュートラル^{※2}
- ※1 紙加工の程度により、度合は異なります。
 ※2 紙製品の燃焼によるCO₂の排出量は、原料である木の生長過程での光合成によるCO₂の吸収量と相殺されるとみなされるので、大気中のCO₂は増加しないと考えられること。

POINT 2 紙の持つさまざまな機能

主要3機能の「読む・書く」、「包む」、「拭く・吸収する」に加え、さまざまな要望に応えることで、紙の機能はこれからも広がっていきます。

日本製紙グループの代表的な紙製品



日本製紙グループの紙製品の詳細
<https://bit.ly/2T2euAN>



これまででもこれからも、時代の要請に応えながら、紙は進化していきます

1 「読む・書くための紙」

長い歴史を持つ記録媒体としての紙は、使いやすさや環境配慮など、時代の要請とともに進化してきました。リサイクルの仕組み・技術も古くから蓄積されています。

事例：嵩高紙（印刷用紙）

嵩高紙は軽量で嵩があるため、持ち運びが多い書籍などに広く採用されています。面積あたりの木材資源使用量の削減にも貢献します。

2 「包むための紙」

加工や印刷がしやすい紙は、以前から紙袋、食品・化粧品の外箱、段ボール箱など、さまざまな梱包用途に使われています。

事例：口栓付き飲料用紙パック

口栓を付けたことにより開封しやすくなり、再封性も備えることが出来ました。本体のデザインも各種取り揃え、お客様の要望に沿った紙パックを提供しています。キャップを外して通常の紙パックと同様のリサイクルが可能です。

事例：シールドプラス®（食品包装紙）

従来の紙が有していない、水蒸気や酸素に対するバリア性を持たせた素材です。保存性の必要な食品パッケージ用途で、プラスチック以外の新たな選択肢として、採用が広がり始めています。



3 「拭く・吸収するための紙」

フェイシャルティッシュやトイレットロール、紙おむつなど、紙の持つやわらかな肌触りを生かし、健康で衛生的な生活をサポートする製品です。中でも、高齢者向けの「大人用紙おむつ」は健康長寿国を目指す日本において需要が増えています。

事例：肌ケア アクティ®（大人用紙おむつ）

セルロースナノファイバーを配合した、消臭機能に優れた大人用介護用製品です。気になるにおいを抑えることで、より快適な生活を支えます。



4 「機能性に優れた進化する紙」

さまざまな紙製品が開発されています。

事例：耐水ボード

古紙を利用した板紙に極めて高い耐水性を付与させた製品で、選挙ボードや屋外イベントのサイン用などに使用されています。分厚く強度があり、通常の板紙同様にリサイクルできる点が特長です。

事例：ミネルパ®（ミネラル高配合紙）

抗菌性、消臭性、難燃性など、ミネラルの持つさまざまな性質を紙に付与できる製品です（紙季折々Vol.26参照）。

事例：紙製ストロー

海洋プラスチック問題に対応すべく、外食産業を中心に紙製ストローなどへの切り替えの動きが加速しつつあります。日本製紙では2019年4月より紙製ストローを販売しています。



事例：農業用シート

紙と生分解プラスチックを混抄することで、プラスチックの持つ性能と紙の特性を併せ持つことができるシートです。最終的には自然に土へと還るため、育苗ポットなどへの利用が可能です。